

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-290	22-077	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
Alcohol as a risk factor for hearing loss: A systematic review and meta-analysis 難聴の危険因子としてのアルコール： システマティックレビューとメタ分析		
執筆者		
Qian P, Zhao Z, Liu S, Xin J, Liu Y, Hao Y, Wang Y, Yang L.		
掲載誌		
PLoS One. 2023 Jan 20;18(1):e0280641. doi: 10.1371/journal.pone.0280641.		
キーワード		PMID
アルコール摂取、メタ解析、難聴、疫学		36662896
<p>要旨</p> <p>背景：アルコール摂取が難聴の危険因子であることを示唆するエビデンスが増えつつあるが、そのエビデンスには一貫性がなく、対象集団の違い、対象数、難聴の評価方法、飲酒の定義による違いの可能性もある。そこで、この系統的レビューとメタアナリシスは、難聴に対するアルコール摂取の影響を評価することを目的とした。</p> <p>方法：本メタ解析は、PRISMA ガイドラインに従って実施し、PROSPERO に登録されている。2021年11月までに発表された論文について、「飲酒」と「難聴」をキーワードに複数のデータベースを検索した。2名の研究者が独立して研究の選択とデータ抽出を行った。研究に含めた各研究の質については、Newcastle-Ottawa-Scale (NOS) で評価を行った。固定効果モデルとランダム効果モデルを用いて結果を併合した。異質性解析の結果 (Q 統計量と I² 統計量) に基づき評価した。異質性の潜在的な原因およびプール推定の頑健性を評価するために、サブグループ解析および感度解析を実施した。文献の出版バイアスは Egger の検定を用いて評価した。</p> <p>結果：この検索において、合計 18 件 (横断研究 9 件、症例対照研究 5 件、コホート研究 4 件) の観察研究が同定され、27,849 人が組み入れられた。非飲酒者と比較した飲酒者のプール OR は 1.22 (95%信頼区間: 1.09-1.35) で、研究の異質性については中程度であった (Q test p=0.032, I²=41.2%)。サブグループ解析の結果としては、男性 (OR = 1.56; 95% CI, 1.12-2.01)、平均年齢より若い集団 (OR = 1.46; 95%CI, 1.27- 1.66)、2010 年以降の研究 (OR = 1.48; 95%CI, 1.28-1.67)、アジアの研究 (OR = 1.42; 95%CI, 1.24-1.60) でアルコール摂取と難聴の関連がみられた。</p> <p>結論：飲酒者は非飲酒者よりもリスクが高く、アルコール摂取と難聴との正の関連を示唆する結果であった。飲酒制限は難聴予防に有用である可能性がある。</p>		